

天使病院を受診された患者のみな様へ

本研究に関するご質問・ご相談等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。

ご希望があれば、個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することができます。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんのでお申し出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

研究課題名	静脈カテーテル感染症等の輸液ルート使用にかかわる実態調査
研究の対象	2019年1月1日～2021年12月31日に当院で、中心静脈カテーテル治療を受けられた方
研究目的・方法	<p>静脈カテーテルは入院患者のおよそ70%に挿入されているとされ、最も多く行われている医療行為の一つである。静脈カテーテルには末梢静脈カテーテル、中心静脈カテーテル、末梢挿入型中心静脈カテーテル、皮下埋込型中心静脈カテーテルなどの種類があるが、どのカテーテルも血管内に挿入されることから決して侵襲性がゼロの医療行為ではなく、それらによる合併症により入院期間延長や入院コスト増大などの負の影響をきたすことがあります。血管内カテーテル留置に伴う合併症には、カテーテル関連血流感染症（以下 catheter-related blood stream infection; CRBSI）、血栓症、静脈炎、閉塞、配合変化などがあげられます。</p> <p>一方、栄養サポートチーム（NST）が全国的に稼働している施設においては、栄養管理法の適正化やカテーテル感染症の予防や治療に活動しています。しかしながら、これまでのNSTの活動によるCRBSIやその他の合併症に対する成果や課題を検証可能にした大規模かつ多施設による実態調査は行われていません。そこで、本研究では、静脈管理およびCRBSI、カテーテル閉塞の実態を調査し、その要因を明らかにすることを目的としています。</p>
研究期間	承認日から2022年12月31日
研究に用いる試料・情報の種類	年齢、性別、基礎疾患、入院期間、カテーテル挿入・抜去日、薬剤、血液培養検査、アルブミン、CRP、白血球、等の血液検査
外部への試料・情報の提供	本研究で取り扱う情報は、完全匿名化した情報を藤田医科大学のREDCapシステムに提供し、サーバー内で安全に管理されます。
外部からの試料・情報の提供	なし
研究組織	<p>研究代表者： 二村 昭彦 藤田医科大学七栗記念病院 薬剤課</p> <p>共同研究者： 飯田 純一 済生会横浜市南部病院 入退院支援センター 臼井 正信 藤田医科大学病院 緩和ケアセンター 荻野 晃 トーカイ薬局 中津川市民病院前店 鈴木 彰人 九州保健福祉大学大学院医療薬学研究所 臨床薬学第三講座 谷口 靖樹 三重北医療センター いなべ総合病院 薬剤部 東 敬一郎 浅ノ川総合病院 薬剤部 牧 宏樹 市立甲府病院 薬剤部 水谷 一寿 洞爺温泉病院 薬剤課 室井 延之 神戸市立医療センター中央市民病院 名徳 倫明 大阪大谷大学薬学部薬学科 実践医療薬学講座</p> <p>応募により、既存の試料・情報の提供のみを行う機関</p>

問合せ先及び研究への
利用を拒否する場合の
連絡先

研究機関：藤田医科大学 七栗記念病院 薬剤課
研究代表者：二村昭彦
連絡先：電話059-252-1555、E-mail:futamura@fujita-hu.ac.jp

研究機関：社会医療法人 母恋 天使病院 薬剤部
共同研究者：伊藤 拓
TEL：011-711-0101
FAX：011-751-1708